



### 1年生になったら

学校生活に慣れることが、まず、一番の目標です。先生の名前、友だちの名前、学校の様子を見て回って、何がどこにあるのか知ることはとても大切です。主体的に行動できる第1歩です。

次に、勉強のやり方を学びます。

先生の話をよく聞くことができれば、どんどん大切なことが身に付きます。

先生も、ゆっくり丁寧に一つ一つの文字を指導します。小黒板の4つのマスに気を付けて書いたり、大きくテレビに映したワークシートを見たりしながら、大事なことに書き方を練習します。



時には、空書きと言って手をまっすぐにのばして順序良く空中で文字を書いています。「ひらがなは、もう知っているよ。」という子もいるかもしれ



ませんが、ひらがなの形や書き順などは、1年生の時に身に付けたことがその後、ずっと大きくなって影響します。

なぎさ公園小学校では、ユビックスという補助の用具を使って鉛筆の持ち方に気を付けています。

### 西洋イワナンテン

西洋イワナンテンはつやのある葉が年間を通して美しい緑低木です。春には白い花を咲かせます。

### 5月の生活目標

- 廊下や階段、オープンスペースを静かに歩こう
- 名札をつけよう

左のような丁寧な指導も重要ですが、一番は、「子どもたちの可能性」を信じるということだと思います。

「ピグマリオンの不思議」という話を聞いたことがあります。ある心理学者の実験によると、無作為に選んだ小学生について「この子たちは、この1年で伸びる可能性がある」と報告したところ、1年後、本当に伸びたということです。「この子は伸びる」そう言われただけで、本当に成績がよくなってしまふ、ウソのような本当の話があると聞きました。

こうあってほしいという期待は人を変える不思議なパワーを持っているのでしょうか。

「人は誰にもはかりしれない力を体内に秘めている」と聞くと、これまで指導してきた多くの教え子の中にも、そういえば、奇跡があったこと思い出します。

すべてが「気を持ちよう」とまでは言いませんが、目の前の子どもたちをそのような目で見ていきたいものです。

折しも、本校の校歌の一節に「可能性は無限大」と繰り返し歌われているのも同じ気持ちの表れだと感じています。

朝、校門でかわすあいさつにも、「丁寧にありがとう。」「元気な声、ありがとう。」「笑顔がすてき。」「そばに来てあいさつしてくれてありがとう。」

「じょうずなあいさつね。」等々良さを見つけて声をかけると、ますます上手に挨拶ができるようになってきています。

